

関東大震災と油市場

1923年(大正12年)9月1日に発生した関東大震災では、死者・行方不明者が10万5千人に上ったが、うち焼死者が9万1千人、亡くなった方の80%以上が東京での火災による焼死だった。次いで倒壊による死亡が、鉄筋の入っていないレンガ造りが多かった横浜など神奈川で1万3千人であった。意外に知られていないことだが、熱海で12メートル、鎌倉で7メートルの津波があり、600人程度の方が亡くなっているそうだ。ちなみに、東日本大震災では溺死が90%、阪神淡路大震災では圧死が83%であり、これら3つの地震では亡くなった方の原因が全く異なっている。

関東大震災で多かった火災についてだが、当時は東京消防庁がなく警視庁消防部が7署あった。それによると、ちょうどお昼時だったこともあり、出火点が134ヶ所あり、そのうち約半数は初期消火に成功したが、残り70ヶ所程度から延焼したこと。当時の東京には15区あり79.4平方キロメートルだった。そのうちの中心6区と呼ばれた、日本橋区、浅草区、本所区、神田区、京橋区、深川区の34.7平方キロメートルがほぼ全焼した。

この隅田川を挟んだ両側6区、34.7平方キロメートルの中で、焼死者の半分以上にあたる5万8千人が亡くなっている。ちょうどこの時、能登半島から新潟にかけて台風が来ていたので、風速12mから16mの強烈な南風が吹いており、当時の本所被服廠跡地、現在は震災記念堂、東京都復興記念館となっている場所だけで3万人が亡くなっている。この火災被害は夕方の発生だったが、その理由は、昼時に発生した地震から家財道具などを持って避難してきた方々が、ほっと一息ついていたところに火災旋風が巻き起こり、その時の風速は80m、大手町気象台の翌日未明の観測気温が46.4度であり、熱風による死亡や熱さから川に飛び込みその上にまた人が折り重なり大勢の方がなくなった。この火災旋風の仕組みはいまだ解明されておらず、今後のためにも解明が必要ではないかと考えている。

さて、本題の当時の油問屋についてであるが、江戸時代から続く江戸十組問屋の流れを汲む油問屋のほとんどが日本橋を中心とする6区、東京の中心にあった。

「東京油問屋史」によると、春に収穫された菜種は夏に搾油され、9月はナタネ油が出回る旬の時期であり、油問屋は大量のナタネ油を仕入れるのを常としていた。大豆油はまだ認知を受けていたという状況ではなかったため、菜種油に匹敵する食用油がなく、菜種油が暴落する危険がほとんどなかった。逆に年末から端境期にかけて値上がりすることが常だったので、仕入れれば仕入れるほど儲けが大きくなるので、資金力の大きな問屋、在庫能力のある問屋は腹いっぱい仕入れていたという。

このタイミングで9月1日に関東大震災が発生した。江戸十組問屋の流れを汲む油問屋の最大手が大孫商店で2万箱(4万缶)、駿河屋藤田金之助商店も倉庫満杯ですべて焼失、伊勢屋鈴木嘉助商店(カネカ)は火災は免れたものの、2千箱の在庫が倒れて油の海になったとのこと。伊豆安商店も6つの土蔵と船、馬車、トラックが一瞬にして灰燼に帰した。島商も店主はじめ8人が亡くなった。

被害を受けた多くの問屋は震災後、仮店舗の形で営業を再開したが、被害が大きかった問屋は閉店を余儀なくされたり営業権を支配人に譲ったりして、多くの大手の油問屋の影響力が著しく低下した。小売りや仲買、中小で被害の少なかったところ、例えば穴水さんは、震災を機に甲府から東京に進出、宇田川商店も伊豆安商店の番頭だった宇田川喜三郎が震災後独立して今のスカイツリーのあたりで商売を始めた。

ところで大豆油についてだが、精製の技術が改善したことから、震災の前年に大豆油が「大豆白絞油」との名称を付けて、単体で販売されるようになっていた。当時の大豆油は生臭さが残りかなり評判が悪かったため、菜種油と調合しなければ売れなかつたそうである。関東一円の菜種油の在庫が尽きたときに、館野栄吉さんが清水から帆船で大豆油200トン、1万2千缶を急送したと書かれている。当時の市場では白眼視されていた大豆油であったが、背に腹は代えられない中で大豆油が一般に浸透していった。つまり、関東大震災が契機になって大豆油が普及したといえる。

その年の秋に、ドイツから最新式の精製機械を12万7千円で導入し「日清サラダ油 600g 白瓶」が85銭で発売された。当時の帝大卒の公務員の月給が75円だったので、かなり高価なものだった。ちなみに当時は、綿実サラダ油がサラダ油市場の90%以上を占めていたそうである。

日本は大きな災害、特に地震被害は多く、またコロナ禍も一つの災害だと思うが、こうした災害などを契機にして、油脂業界も含めた日本経済は大きく進化、変化を遂げてきたと思う。

株式会社宇田川商店

代表取締役社長 宇田川公喜

※令和7年3月25日開催の東京油問屋市場起業祭式典での"東京油問屋史"の概要を掲載しました